



子どもの森づくり通信

(発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2018年12月号)

〒146-0082 東京都大田区池上 1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
<http://www.kodomonono-mori.net> <mailto:info@kodomonono-mori.net>

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



「東京ゆりかご幼稚園」“コナラじいさん”として親しまれている木、良い枝ぶりですね。

今年最後の「子森通信」をお送りします。

2018年、J P 子どもの森づくり運動は、10周年にふさわしい本当に充実した年となりました。

今年1年、皆様と共に積み上げた成果です。ご共有いただければ幸いです。

来年もどうぞよろしく願い申し上げます。

(目次)

1. 「エコプロ2018」イベントステージレポート
2. 災害時相互支援協力協定「中目黒駅前保育園」実践レポート
3. 「東北復興グリーンウェイブ」活動」レポート
4. 事務局からのお知らせ / どんぐり博士の「育苗日記」(2018年12月号)

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の幼稚園・保育園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運営：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・後援/協力

(公社) 全国私立保育園連盟

(公社) 大谷保育協会

(公社) 国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C富良野自然塾

(一社) 日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(一社) 日本オート・キャンプ協会

(株) 実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



1. 「エコプロ2018」イベントステージレポート

JP子どもの森づくり運動では、今年も、国内最大の環境展「エコプロ2018」のイベントステージで「東北復興グリーンウェイブ」の活動発表を行いました。今年、『とどけ！♪どんぐりえがお、つながれ！“どんぐりの絆”』をテーマに、子どもたちの歌声を通じて「東北復興グリーンウェイブ」のテーマソング「♪どんぐりえがお」に込められた願いを発信しました。司会は、今年も「東北復興グリーンウェイブ」のアンバサダー「どんぐり〜ず」のお二人です。ゲストには、「♪どんぐりえがお」の作詞者である岩手県山田町の男性保育士会「男心会」の中村先生と、作・編曲者である佐久間順平さんをゲストに迎え、まず、歌に込められた“想い”を語ってもらいました。つづいて、子どもたちの歌のコーナーです。今年も、千葉県「今井保育園」と東京都「中目黒駅前保育園」の子どもたちが参加してくれました。今回は子どもたちに本物の音楽を体感してもらうことを目的に、作曲者である佐久間順平さんとプロのバンドさんによるライブ演奏をバックに歌ってもらいました。会場に子どもたちの歌声が響き渡りました。



毎年恒例のラジオ体操



佐久間順平さんのミニライブ



「中目黒駅前保育園」の子どもたちの合唱



「今井保育園」の子どもたちの合唱



みんなで「♪どんぐりえがお」の大合唱



最後に記念撮影

(*ステージの様子は、ホームページでご紹介しております。* 写真提供：日本郵政株式会社 広報部)

2. 災害時相互支援協力協定「中目黒駅前保育園」実践レポート

J P 子どもの森づくり運動では、活動の一環として、防災講座の鎌田講師と共に構築した実践的な災害時の支援協定「災害時相互支援協力協定」のネットワークづくりを推進しています。今回は、その実践レポートとして、「西日本豪雨災害」の際に実践された「中目黒駅前保育園」の被災地支援活動レポートをご紹介します。以下、園の会報に掲載された天野園長先生のレポートです。

(11月に) 義援金を広島に届けてまいりました。義援金23,076円 皆さんのお気持ちに感謝いたします。もりもり組の子どもたちが「はんぶんこの福祉」の思いを込めて、励ましの(大きな) 絵手紙を書いてくれました。J P 子どもの森づくり運動「災害時相互支援協力協定」で、当園は「保育所のみり愛児園」(広島県) と相互支援関係にあります。その園自体には被害はなかったのですが、その園を通して大きな被害を受けた「小屋浦みみょう保育園」へ義援金と絵手紙を届け、現状を見てきました。そして、そこで今でも被災地の大変な苦勞を感じ、ボランティア活動も少し行ってきました。保護者・子ども・職員みんなのお見舞いと励ましの思いが少しでも困難を乗り越えていこうと頑張っている人たちの支えになればと思います。遠く離れた友だちのことを思い、共に頑張る気持ちを子どもたち同士で感じ合いながら交流することで、“共に生きる心”育んでいきたいです。 * () 内は事務局追記。



* 当日、天野園長(写真左)から「小屋浦みみょう保育園」の松尾園長に義援金と絵手紙が届けられました。後日、「小屋浦みみょう保育園」さんから、子どもたちが手づくりした、お礼の大きな絵手紙(写真右端)が送られてきたそうです。両園の園長先生に、敬意を持ってご紹介しました。

3. 「東北復興グリーンウェイブ」活動レポート

○鹿児島県「こまどり保育園」東北の苗木を見送る会

・日時：2018年 5月16日 ・会場：園庭 ・日本郵政グループ出席者：鹿児島中央郵便局 加野さん、有馬さん
「東北へ帰っても元気でねー。」



4. 事務局からのお知らせ：「全国集会&研修会2019」滋賀大会参加者募集

J P子どもの森づくり運動の参加園と保育関係者が集い、交流と情報交換を行う J P子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2019」滋賀大会のご案内です。今年は、基調講演の講師に「**こども環境学会**」代表理事の**仙田満先生**をお迎えし、子どもたちの“遊び”についてお話しいただきます。J P子どもの森づくり運動10周年を踏まえ、これからの10年を考える重要な集会です。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。**大会の詳細、参加お申込みは、同封のチラシをご参照下さい。**

●開催概要

1. 日時：2019年2月7日（木）、8日（金）
2. 会場：「彦根キャッスルリゾート&スパ」滋賀県彦根市佐和町1-8（JR彦根駅より徒歩8分）
3. 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
4. 共催：滋賀県私立保育園連盟
5. 募集対象者（数）：保育園、幼稚園、こども園職員、及び保育団体関係者（先着約50名）

●講師紹介

基調講演	保育実践講座 1	保育実践講座 2	防災講座
			
○講師：仙田満氏 東京工業大学名誉教授 こども環境学会代表理事 環境デザイン研究所会長	○講師：田中住幸氏 飯田女子短期大学 幼児教育科 准教授	○講師：塚原茂氏 子森ネット事務局長 チームビルディング ファシリテーター	○講師：鎌田修広氏 消防庁アドバイザー タフ・ジャパン 代表

●どんぐり博士の育苗日記(2018年12月号) ～「まつぼっくり」も種？～

この原稿は、クリスマスシーズン中に書いています。クリスマス飾りの売り場を眺めていると、まつぼっくりの飾りがついたリースなども見られます。「まつぼっくり」も子どもは大好きですね。

「子森ネット」どんぐり博士：河内和男（森林インストラクター）



「まつぼっくり」はマツだけではなく、クリスマスツリーによく使われるモミヤトウヒの仲間の木も、普段見慣れているものより縦長で立派な「まつぼっくり」をつけます。ですから、クリスマスリースの飾りとなる「まつぼっくり」には、モミヤトウヒ類のものが使われていたと思われます。けれど、「まつぼっくり」はどれもがかわいいので問題ないですね。

さて、モミヤトウヒのものまで「まつぼっくり」と呼んで良いのか？ と自分に突っ込みたくなってきたので、正式名称で呼びます。マツ、モミ、トウヒなどの針葉樹の雌花が受粉してできる果実を「球果（きゅうか）」といいます。果実といっても果肉や果汁はありませんが、球果は、うろこ状になったヒダの一つ一つで種を育てています。

私たちに一番身近なアカマツの球果は、成熟するのに2年かかります。緑色をしていて、小さくまだ柔らかみのあるのは1年目の未成熟の球果です。2年目になると堅く茶色くなり、秋に種が成熟します。この種には羽が付いていて、風に乗って遠くまで飛べるようにできています。けれど雨に当たると重くなり遠くへ移動できません。そのため球果は、晴れた日に種を飛ばすように、空気が乾燥すると、種を挟み込んでいるうろこ状のヒダが自然に開き（松かさが開いた状態）、雨が降るような湿った日は自然に閉じるようにできています。拾った「まつぼっくり」でも確認できます。実験してみてください。

子どもたちが拾ってくる、松かさが開いたものは、球果中の種をすべて飛ばした後のものなので、いくら探してもマツの種を見つけることはできません。どんぐりとは、種の性質と蒔き方が全く異なるのです。